

福島県男女共生センター広報誌

未来館 ニュース

MIRAIKAN NEWS

vol. **52**

CONTENTS

- 特集インタビュー
オバマ大統領主催の
「ホワイトハウス・サミット」に
参加した灘山仁美さん
- 事業レポートI・II
- 未来館フェスティバル速報
- 保育ボランティア養成講座 ほか



オバマ大統領主催の ホワイトハウス・サミットに 参加した灘山仁美さん



平成26年6月23日に、ワシントンD.C.で開かれたオバマ大統領主催の「共働き、一人親家庭に関するホワイトハウス・サミット（以下：ホワイトハウス・サミット）」に郡山市在住のスクールカウンセラー「灘山仁美さん」が招待されました。

今年4月にオバマ大統領が来日した際に、今後、両国のイベントなどを通じ、女性の社会参加推進に向けた取組を進めることが確認されたことから、今回日本から5人の女性が招かれました。灘山さんは森雅子男女共同参画担当大臣（当時）から「被災地の声を届けて欲しい。」と推薦を受け、渡米することになりました。そこで、ホワイトハウス・サミットの事、御自身のお仕事についてお話を伺いました。

今年4月にオバマ大統領が来日した際に、今後、両国のイベントなどを通じ、女性の社会参加推進に向けた取組を進めることが確認されたことから、今回日本から5人の女性が招かれました。灘山さんは森雅子男女共同参画担当大臣（当時）から「被災地の声を届けて欲しい。」と推薦を受け、渡米することになりました。そこで、ホワイトハウス・サミットの事、御自身のお仕事についてお話を伺いました。

参加された「ホワイトハウス・サミット」とは、 どのような催しでしたか。

ホワイトハウス・サミットとは、全米の女性支援、一人親家庭や共働き家庭への支援の動きを確かなものとし、さらに、活動・行動を起こしていくため開催された会議です。ホワイトハウス近くのホテルで行われ、企業経営者、労働組合リーダー、一般市民ら約1,500人が集まりました。参加者のほとんどが女性で、男性は数えるくらいでした。ホワイトハウス・サミットは、6月23日（現地時間）に開かれ、全体会、分科会、オバマ大統領夫妻やバイデン副大統領夫妻のスピーチが行われました。分科会は午前と午後それぞれ2つずつの4つに分かれていました。大統領が出席する会議のため、セキュリティチェックがとても厳しく、時間がかかり、開会の時間になっても入れない参加者もいたくらいでした。

日本から、自民党総務会長（当時）の野田聖子さん、イー・ウーマン代表の佐々木かをりさん、AERA編集長の浜田敬子さん、大塚製薬常務執行役員・広報部長の笠章子さんと私の5人が招待を受け、オブザーバーとして見学させていただきました。韓国からも5人が招待されました。

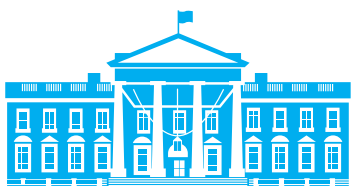
「ホワイトハウス・サミット」に参加しての感想や 女性を取り巻く日本とアメリカの違いについて 感じたことはありましたか。

ホワイトハウス・サミットでは、女性の力が経済を動かす、女性の力を活用しないと経済力は高まらないということが強調されていました。これからの経済発展には女性の力が必要だと思いました。

家事や家族の世話、時間のやりくりをしながら生活を支え家族の中心となっているのは女性です。その女性が能力を発揮し働くことができないのは、社会の大きな損失で、その損失を少なくするために、働くことを希望している女性をサポートして、いかに活用するかということが重要だと思いました。

また、私もそうですが、親がいて子どもがいる間の世代をアメリカではサンドイッチ世代と呼びます。今回のホワイトハウス・サミットでは、そのサンドイッチ世代をいかにサポートするかについても話し合われていました。例えば、日本では、多くの企業で1～2年間くらい育児休暇が取得できますが、アメリカには育児休暇や介護休暇制度はありません。今、アメリカでは政府に対して育児休暇や介護休暇の法制化を求めようとする動きがあります。日本は女性支援の後進国だと思われがちですが、進んでいる部分もたくさんあると思いました。

その他に、サンドイッチ世代をサポートする様々な家事サービスの充実、企業で実施しているサポートの事例発表、企業のトップが子育てや親の介護で実際大変だったこ



となどの体験談を聞くことができました。

ホワイトハウス・サミットを通してとても印象に残っているのが、ミシェル・オバマさんのスピーチです。ミシェルさんがファーストレディになる前は、病院で副院長（注：医師ではない。）だったそうです。その仕事のオファーがあった時に2番目のお嬢さんは生後4ヶ月だったため、「下の子を預ける所がなければ働けない」と面接に子どもを連れて行ったそうです。「病院側が保育士の手配などサポートしてくれたため、私も働くことができたし、子育てをしながら働く女性のサポートは必要だ」ということを話していました。アメリカには育児休暇制度はありませんが、ミシェルさんは病院側のサポートを受け、働くための環境が整いました。日本は育児休暇や介護休暇が法整備されていますが、まだまだ、女性は働かないで家にいるべきだとか、仕事の中ではあくまでも補助的な仕事などが主流だというような考え方が多いように思います。日本でも女性が働き続けるためには、家族や職場などの理解やサポートが必要ではないかと思いました。

私たち以外にも韓国から国会議員やマスコミ、各方面の代表の方々5人が招待されていました。韓国では、日本より男女差別がはっきりしていて、子どもを持つと主に受験のサポートが要因なのですが、母親は子どもをとるか仕事をとるかという選択を迫られるそうです。国によって、女性に対する考え方が違うと感じました。

ホワイトハウス・サミット終了後、ワシントンD.C.とニューヨークに行き、国務省やNPO団体、シンクタンク、ベンチャー企業、大学など女性支援や女性の社会参加推進に向けた取組をしている企業、そして、国連を訪問させていただきました。

今回の訪問で、自己紹介をさせていただく機会には、福島県から来たことを強調し、震災後の支援について感謝の気持ちを伝えました。ただ、偶然、乗り合わせたエレベーターの中でアメリカ人の女性に話しかけられ、福島県から来たと伝えると、「福島では今もガスマスクをしているの?」と聞かれました。未だにそんな風に思われているのかと正直驚きました。福島県は地震・津波・原発事故の三重の被害を受け、「FUKUSHIMA」は全世界に知られることとなりましたが、福島県の現状が正しく伝わっていないのかな、と感じさせられました。

スクールカウンセラーのお仕事について教えてください。

現在は、中学校2校と小学校4校を担当していて、学校の規模によって時間が決まっています。学校では、クラスを見たり、学校生活に難しさを感じる子どもを支援したり、子

どもたちと給食を一緒に食べたりしています。また、先生とお話しをしたり、保護者の方と面談をしたりしています。学校に来られない子には家庭訪問をして、直接会いに行くこともあります。

郡山市では、どんなに小さな小学校にも全てスクールカウンセラーが配置されています。東日本大震災の後、子どもの心をケアする上で、混乱があった地域もあったと聞きましたが、郡山市では震災前から全学校にスクールカウンセラーが配置されていたことで、混乱は少なかったと思います。通常スクールカウンセラーは、ゴールデンウィーク明けぐらいから仕事開始です。震災後、初めて4月に学校へ行きましたが、震災もあってか、こんなにバタバタしているんだと実感しました。子どもたちの中には携帯電話の緊急地震速報にビックリして怖がっている子もいました。まだ余震も大きかった頃、子どもが私の方へ寄ってきた時は、「大丈夫、大丈夫。」と声をかけていました。

小学校と中学校の連携を取ることは難しいのですが、私の場合、同じ地区の小学校と中学校を担当しているため、継続してケアすることができます。小学校でも中学校でも相談に対応できるので、保護者の方々とのつながりを持つこともできると感じる人が多いです。

子育てをしながら仕事を続けていて、大変なことやよかったことはどんなことですか。

自分のやりたいことをやっていたので、大変なことはありませんでした。私は何でもプラスに考える性格だと思います。

ただ、私の今までの経験を話すと「大変でしたね。」と言われることが多いです。私は、企業に勤めてから海外勤務を経て、帰国後、結婚、出産、子育てをしながら、大学の通信課程で福祉心理学を学び、認定心理士の資格を取りました。大学に通っていた時は、私の祖母と母が子どもの面倒をみて、サポートしてくれました。私が生まれ育った家では、「女の子だからやりなさい。」とか、「女の子だからやめなさい。」とか言われたことがありません。レポートを書き、試験を受け、スクーリングにも行かなければならないと考えれば大変かもしれませんが、子どもをみてもらえたので、私は勉強する時間をもらえましたし、頑張らなくてはいけなことも思っていました。

現在、子どもは中学2年になりました。夫は中国に単身赴任していますので、近所にいる家族が今もサポートしてくれます。今回のホワイトハウス・サミットに参加の打診があった時、「行きます。」と即答できたのは、その家族の支えがあったからです。そして、こんなチャンスこの先ないと思ったからです。

仕事を続けていてよかったことは、仕事をしていると自分の居場所があると感じられることです。私が一番大切にしていることは、子ども達が楽しく元気に毎日を過ごすことです。そのためのお手伝いのできたらいいなと思っています。そういう仕事に就いていることがうれしいし、その場所が与えられている限り、この仕事を続けたいと思います。

しかし、最後までサポートしきれなかった子どもや保護者がいると、悲しく、苦しい気持ちになります。もっとサポートしたかったけれど、なかなか上手くコミュニケーションが取れないこともありました。震災後、特にお母さんが悩みや心配を抱えている子どもの支援が難しいと感じました。お母さんの話を伺い、お母さんの不安により添います。子どもは強いし、生きる力があると思います。周りの雰囲気、サポートの仕方と一緒にいる方法を変えると、子どもたちはすごいパワーを発揮すると実感しています。

「共働き・一人親家庭に関するホワイトハウス・サミット」に参加した経験を今後どのように活かしていきたいですか。

今回のホワイトハウス・サミットでは、アメリカでの女性の社会進出に積極的に活動している企業や団体を訪問し、国として女性の活躍促進をどう進めて行くか、多くの方のお話しをお聞きし、学ばさせていただきました。

私の仕事は、子どもたちが毎日学校で元気に過ごすためのお手伝いをすることです。子どもたちはこれからチャンスがいくらでもありますよね。その子がやりたいことを応援してあげたいと思います。将来どうなるかは私が判断することではないですし、100人が反対しても私は反対しないであ



▲左から野田聖子さん、佐々木かをりさん、浜田敬子さん、笠章子さん、灘山仁美さん

げたい、子どもたちにはたくさんの可能性がありますから、そうすることによって、自信を持って人生を生きてほしいです。子どもたちだけではなく、保護者や先生たちにも寄り添っていきたくと思っています。

日本から、御一緒させていただいた皆さんも感じていることですが、日本の女性は能力があるのに、女性だからという理由で、挑戦することを控える人が多いと思います。もっと、周囲にサポートをお願いしたり、どんなことをやりたいのか、積極的に行動したりすることが必要だと思います。女性自身が「女性だから」という性別の枠にはめて考えているところがあるのではないのでしょうか。仕事で会議に出席すると、同じ会議の同じ出席者の立場でも男性は何もなくていいけど、女性はお茶くみをしなければならないと女性自身が思い込んでいるのではないのでしょうか。（男性の側もそのように求めますが。）「女性だから」「男性だから」ではなく、家庭や職場のちょっとしたことで、社会が変わっていくためには、些細なことでもちゃんと声に出していくことが、日本の発展につながる社会を形成する力になっていくと信じています。



灘山 仁美 (なだやま ひとみ) さん

■プロフィール

郡山市出身、スクールカウンセラー。仙台の短大を卒業後、米国の私立高の日本語教師となり、現地のスクールカウンセラーの活動と出会い、子どもの話に耳を傾け、悩みを解きほぐす姿に感動した。企業の通訳として海外勤務を経験、帰国後、結婚、子育てをしながら大学の通信教育課程で福祉心理学を学び、認定心理士の資格を取得した。平成20年度から郡山市の小中学校のスクールカウンセラーとなり、現在はいわき市の学校も担当している。



図書室よりおすすめの本 読書からワークライフバランスのヒントを!

センター図書室では、ジェンダー学・女性学・男性学・女性史を中心に、その他仕事・福祉・家庭・教育など男女共同参画に役立つ資料を収集しております。今回は「仕事・労働」の分野から、皆さんのワークライフバランスを支えるヒントになるおすすめの3冊をご紹介します。ご紹介した本は貸出できますので、ぜひご利用ください。

2人が「最高のチーム」になるワーキングカップルの人生戦略

小室淑恵・駒崎弘樹 英治出版 2011年【分類 2201/コ】

企業における働き方の改革や保育の分野で活躍する2人の著者は、お互い夫婦共働き（ワーキングカップル）でお子さんもいます。本書は、パートナーとのコミュニケーションや家事・育児の上手な分担方法などの生活術から効率的な仕事術まで、経験に則したとても具体的な戦略が紹介されています。これから仕事に復帰する女性にもおすすめです！



これからも働き続けるあなたへ 働く女性の不安をやわらげる42の処方箋

太田彩子 大和書房 2012年【分類 2202/オ】

女性の働き方はライフイベントによって大きく変わります。その際に付いてまわるのが、働くことに対する「不安」。本書は「就職」「結婚」「子育て」などに関する6つの大きなライフイベントやステージごとに章がまとめてあるので、興味があるところから好きなように読むことができます。不安をやわらげ、毎日をイキイキと過ごすための「コツ」を教えてください。



女性が部下をもったら読む本

蓮尾登美子 同文館出版 2008年【2202/ハ】

働く女性が増え続け、上司やリーダーになる女性も多くなっています。これまではロールモデルや相談できる人が少なかったため、トラブルを抱えてひとりで悩む人もいました。特に人間関係で苦勞しているようです。若手社員、女性の部下、年上の部下、デキの悪い部下とタイプ別にかかわり方のコツを掲載している章もあり参考になります。



福島県青少年・男女共生課からのお知らせ

「人権のつどい2014いわき」開催のお知らせ

- 日時**／平成26年11月15日(土) 12:00開場 13:00開演
- 全国中学生人権作文コンテスト福島県大会表彰式及び作品発表会
 - 記念公演「青島広志の人権おしゃべりコンサート」

場所／いわき市小名浜市民会館(いわき市小名浜愛宕上6-1)

問い合わせ先・申込先／

参加については、FAX、Eメール、ハガキのいずれかで申し込みください。

「人権のつどい2014いわき」事務局

TEL: 024-524-8190 FAX: 024-521-8390

Eメール: jinken2014@light-agc.co.jp

ハガキ応募先: 〒960-8691 郵便事業会社 福島支店 私書箱60号

「人権のつどい2014いわき」事務局 行



未来館フェスティバル2014

～ひとりひとりが未来のチカラ～

9月20日(土)、21日(日)の2日間にわたり、「未来館フェスティバル2014」が開催されました。今号では、その様子の一部をご紹介します。講演内容や県民の皆さんによる企画については、次号で詳しくご報告します。どうぞお楽しみに！

9月20日
(土)

午前 シンボルイベント「母の道、娘の選択」映画上映&我謝京子監督トーク

上映された映画は、ニューヨーク在住の日本人女性のインタビューをとおして、母と娘の生き方の違いや日本女性の強さを映し出すドキュメンタリーです。その後の我謝監督によるトークは、ご自身の9.11の被災体験や母と娘の関係について、多くの県民が共感できるお話でした。



我謝京子監督

午後 未来館ネットワークカフェ

「男女共同参画基本法から15年が経ち、なぜ、男女共同参画が進まないのか」をテーマにグループで話し合いました。「家族や地域ではまだまだ男女共同参画意識が根付いていないと感じる」「若い世代の人から男女共同参画を学ぶことができたらいと思う」など、活発な意見交換が行われました。



ネットワークカフェの様子

9月21日
(日)

福島県社会福祉協議会「認知症介護セミナー」

講師：宮崎和加子（社団法人全国訪問看護事業協会 事務局長）

自分らしく地域の中で暮らしていくために、認知症の人の歴史から学ぶ認知症ケアについてお話しいただきました。

県民参加企画

県民の皆さんによる県民参加企画をはじめ、様々なイベントが催されました。



●● 事業レポートⅡ ●●

保育ボランティア養成講座を開催しました

平成26年7月29日(火)に、子育て中の方が研修や学習会等に参加する際、一時的にお子さんをお預かりする保育ボランティアを養成するための講座を開催したところ、27名の方が受講されました。

「子どもの発達と関わり方」「保育の心構え」	二本松市立とうわこども園園長 栗原節子先生
「緊急時の対応等」「手遊びなど」	二本松市立小浜保育所所長 石川祥子先生
「男女共同参画とセンターの役割」	福島県男女共生センター職員 武藤朋美



▲ペットボトルキラキラ

栗原節子先生からは、0～6歳児までの発達や保育をする上での注意点、年齢ごとに適した絵本や歌についてお話しいただきました。また、積み木遊びやごっこ遊びから子ども達が学ぶこと、絵本の読み聞かせが育むものを教えていただきました。

石川祥子先生からは、ケガや誤飲、熱性けいれん、感染症等に際し保育所で行っている緊急時の対処方法や対策について具体的にお話しいただきました。また、「グーチョコキパーでなにつくろう」や「キャベツのなかから」などの手遊び歌、ペットボトルにシールやテープで装飾し、水の中に細かく切ったキラキラシールを入れた「ペットボトルキラキラ」の作り方を教えてくださいました。

受講者の皆さんは楽しみながら、子育てや保育をする上で大切なこと、子どもを喜ばせ遊ばせる方法等について学びました。受講後、センターの保育ボランティアに登録をしてくださった方もおりました。



▲栗原先生



▲石川先生

受講者からの声

- 子どもの成長に合わせた関わり方や注意点がわかりやすく、純粋な心の育み方が大変参考になりました。
- もしもの時、あわてないで、冷静に対処できるようにしたい。手遊び歌は、子供が喜びそうなので、早速やってみたいです。

県外避難者支援団体紹介

鳥取県には、113人(平成26年9月11日現在)が福島県から避難されており、震災直後から鳥取県の皆様に温かい御支援をいただいております。今回は、とっとり震災支援連絡協議会事務局長の佐藤淳子さんからその活動を御紹介いただきます。

「わすれないこと。つづけていくこと。」 とっとり震災支援連絡協議会

2012年3月11日に東北・関東地方各地から、様々な不安を抱えて、ここ鳥取に来られた方々を支援するために立ちあがった団体が、「とっとり震災支援連絡協議会」です。

当団体は震災直後に東北にゆかりのある人たちが、避難者の方々の「子どもが使うスプーンはないですか」「暖房機器はないですか」の声に応えるため物的支援をしたり、知らない土地で不安を語れる交流の場を手弁当で開いたりしていた「とっとり東北県人会」が母体となりました。

現在は複数の団体が構成メンバーになり、鳥取県の委託などを受けて運営をしています。行政と連携することで、県に登録している方々には、支援の情報提供ができています。

2012年12月に事務所を構え、支援コーディネーターが常勤している活動拠点ができたことで、避難者さんだけではなく、支援をしたいと希望する方々も訪ねて来られます。

集える場所があることはとても有意義だと実感です！

年間を通して、お茶会、交流会を開き個々が抱える不安や、現状を語り合える場を設定しています。

地域や、企業と連携した「芋煮会」も好評です。去年は、東北各地の4種類の芋煮を作って、鳥取県内の方々には

「珍しい味」、避難者の方々には「懐かしい味」を楽しんでいただきました。

避難者さんの中には、「いずれ福島に戻りたいが、この生活をいつまで続けるべきか」「生活基盤ができ、移住を決断すべきか」などの悩みを抱え、精神的にも経済的にも不安定な様子がかげえ、不安が解消されることはなく、多様化してきていると感じます。

鳥取県民の皆さんには、避難の現状が正しく伝わっていないこともあり、偏見や風化を防ぐために、各地で講演会、フォーラムなどの啓発活動、県内支援希望者のネットワークを図る会合も開催していますが、これらの活動は、丁寧に根気よく続けていくことが大事だと考えています。

また、今年も鳥取で福島の子供たちのサマーキャンプを行いました。

福島を始め被災地の現状を把握すること、被災地と連携することは大切です。遠い地域の出来事で終わるのではなく、私たちにできることはまだまだたくさんあります。

一人一人が何処にいても安心して生活できる日を目指して！



福島県男女共生センター広報誌

未来館
MIRAIKAN NEWS
ニュース

2014.10
vol. 52

■編集・発行

(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター(女と男の未来館)
〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
TEL:(0243)23-8301(代) FAX:(0243)23-8312
ホームページアドレス: <http://www.f-miraikan.or.jp>
メールアドレス: mirai@f-miraikan.or.jp

女と男の未来館

